

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373500145		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	前山ホームらく楽(東)		
所在地	愛知県常滑市金山字前田129		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JizyosyoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成27年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入所に至ったとしても、生活の場が移動しただけでなるべく自宅で生活していたスタイルを入所後も継続できるよう努めている。長年同地区で運営している点、地域の方との関わりが根強く、季節の野菜などを差し入れていただいたり、ボランティアとしてレクリエーションに参加して下さる。地域行事や地域防災などにも地域の一員として参加し、協力体制も構築出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田畑が広がる集落の一面に位置し、自然豊かで静かな環境にある。オレンジの屋根とクリーム色のモダンな外観は明るく、周りの景色の中に際立つ佇まいとなっている。「やってあげる」のではなく、「やらせていただく、一緒にやる」という信念を職員が共有し、日々丁寧なケアに努めている。地域で暮らす地域人として、地域の祭りや清掃活動などの行事に積極的に出向いたり、「笹まき」など昔から伝わる菓子作りを地域の人と一緒に作り、祝い事を楽しんだりして、地域の伝承や伝統を生活の中に取り入れて昔からの馴染みを大切にしている。入居者と共にホームにやって来た犬もホームの一員となり、毎日の散歩に楽しさが加わり、ごぞって散歩に出かけている。培ってきた生け花や畑仕事などをしながら、暮らしの楽しみと幅を広げようとしている。柔らかい日差しが注ぐ居間で、のんびりとテレビを見たり職員と会話を楽しんだりして過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を事務所に掲げて全職員がわかるようにし、日々のケアの実践している。	事業所の理念を目に付きやすい玄関や事務所に掲示している。簡素で分かりやすく5項目で表記して職員間で共有し、日々のケアに繋げている。また、ケアの中で職員相互に気付き促しをしながら理念を振り返り、共有を深め実践に活かすように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入会。回覧板を回し合ったり地域の一斉清掃、資源ゴミ当番、盆踊りなどに参加している。	町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報を入手したり、地域の盆踊り、清掃活動等に参加している。また、日常的にホームで飼っている犬の散歩や買い物に出かけ地域の人たちと挨拶を交わしたり、「笹まき」の伝統菓子作りを行う等、積極的に地域との関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議にて地域の方にも来て頂き認知症の勉強会を行った事がある。 ・運営推進会議等に地域の方々にも声かけし参加してもらうことで事業所の現状や支援の仕方などを知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で取り組みの報告を行い、施設の現状なども伝え、意見をもらうようにしている。	入居者家族や区長、民生委員、コミュニティー会長、老人会会長、老人協力員、行政、法人職員の参加を得て、2か月に1回開催されている。事業所の行事報告、研修報告、地域との情報交換などが行われている。提案や意見は記録されカンファレンスで協議し、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議等で実情やサービスの取り組み等を報告、相談している。 ・毎年交流会などもあり、相談しやすい関係ができています。	推進会議の資料等の配布や代行申請、更新手続きの折に、行政担当者に指導や助言を得ている。また、市主催の研修や交流会に積極的に参加したり、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケア方法等法人内の勉強会で学び実践している。	「身体拘束ゼロ」の手引書に基づき法人や事業所内で研修を受け意識を高めている。安全性に配慮し玄関を施錠している。また、転倒の危険がある入居者のベットに柵やセンサーを設置し安全を確保している。	安全性に配慮し、ケアの中で必要とされる事項については、家族への説明に加えて、同意書も得て、入居者の意向や尊厳を尊重した拘束感のないケアに繋げる努力を望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止の勉強会に参加し実践している。 ・内部、外部研修に参加し勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見人制度を研修会で学び、実際に利用者が制度を利用している方がみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所申し込みの時点から御家族から悩みや不安、疑問点をたずね、契約に至った時点で更に十分に話し合いを行い納得いただいた上で入所していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や運営推進会議などで訪問時に、声をかけ意向を伺っている。	入居者からは日常のケアの中で把握し業務日誌に記入しその都度検討をしている。家族からは運営推進会議や面会、行事時などに意見や提案を聞き、ミーティング等で話し合い運営に反映させている。月1回便りで家族に情報を提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員ミーティングなどで意見を聞いている。また、年2回の面談でも要望等聞き出すようにしている。	日常の業務の中や日々のミーティングで提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。職員との個人面談もあり、要望や意見、悩みなどを聞く機会も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・今年度の後期より、キャリアパス要件と人事考課面接の連動した取り組みを行う。 ・より働きやすいように福利厚生の実施にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員ミーティングにて2ヶ月に一度、法人内部研修を月に1、2回行い学ぶ機会を設けている。 ・面接などで要望を聞き、希望する外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・愛知県グループホーム連絡協議会に参加しており、研修会などを通じ交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービスを導入する前に(入所申し込み、面接等)にお話を伺う機会を設け顔をまず知ってもらう事で安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・申し込みの段階で、何に困って事業所にどんなことを望んでいるのかなど話を伺い、その時点でアドバイスすることで関係性をつくり安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申し込みの段階で、本人、家族の実情を伺い当ホームが今の時点で本人に適しているのか、そうでなければ何のサービスが必要なのかという内容まで話し合いができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・居室、フロア、など考慮し、利用者同士が協力し楽しく生活できるよう努めている。 ・出来る事はご自分で行っていただいている。 ・本人の意志を尊重し対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族に協力して頂ける限りお願いをし、本人と家族がふれあえる機会を多くもてるようにしている。 ・家族面会時には出来るだけ本人の様子を伝えるようにしている。 ・病院受診や薬の受取り等を家族にも行っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・御家族に確認をとり、可能なかぎりなじみの方と外出したり面会ができるよう努めている。 ・それまで近所に住んでいた方が面会にいらっしゃる事がある。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。馴染みの理髪店やお墓参りなどへ出かけたりしている。菜園での畑仕事、散歩で摘んだ花を生けるなど培った経験を活かすようにして、これまでの経験や馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が仲立ちとなり、利用者同士と一緒に過ごしやすい雰囲気をつくっている。 ・レクリエーションや家事等を通じ、関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約を終了した家族の方が事務所に顔を出してくれたり、ボランティアで行事等の支援をしてくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所当初はアセスメントシートを作成し出来る限りご本人の希望を聞き出し反映出来るように努めている。又、入所後も新たな希望が聞き出せるよう担当職員が機会を設けお話し出来るよう努めている。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取り、申し送りノートに記入し、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない入居者については、家族からの情報を得るようにしている。随時職員間で話し合い、本人の思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時、アセスメントシートを作成しその後、職員全員に把握してもらうため開示しケアに活かせるよう努めている。 ・アセスメントシートを活用して利用者の生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・担当制を用いて利用者の状態をより把握している。 ・その人の得意な事をお願いしたり(家事)している。 ・本人の様子やタイミングを見て部屋で休むなど職員は把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人、家族はもちろんのこと、ミーティング等で意見を出し合い現在の課題や本人の希望を介護計画に反映できるよう努めている。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を観察し、家族の意向等をふまえて、ミーティングで検討して介護計画を作成している。6か月に1回の定期見直しや随時見直しをし、家族に内容を伝えている。どの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録に介護計画を掲載し日々の実践、結果を記録出来るようにしており、介護計画やモニタリングに活かせるようになっている。 ・職員ミーティングで話し合い、介護計画の見直しを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員ミーティングで話し合い、どのような支援やサービスが良いか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の公園などで咲く花を見たり散歩をすることで楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前からかかりつけ医を入所後も継続し、適切な医療が受けられるようにしている。又、状態によっては本人、家族に了承をもらった上で専門医にかかるようにしている。	入所時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いて選んで頂いている。内科の受診は月に1度、歯科は2か月に1度、主治医による診療を受けている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で共有し、適切なケアが受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職は常に利用者の心身の状態に気を配り、看護職に情報を記録や電話で報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院と日頃より連携会議等で関係性を築き、常に相談できる体制が出来ている。入退院時も必要な情報を交換し合い、より良い治療、退院後の生活が営めるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・まず契約時終末期のありかた(延命治療等)について現時点での考えを家族から伺い、事業所で行える事を説明し、希望があれば看取りを実施。その際、家族、かかりつけ医等と十分話し合いを行い実践している。	重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように日頃から研鑽を重ねている。看取りの対応は、職員のメンタルケアも含めて法人内で確立されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・研修会、勉強会などで知識を高め現場で看護師指導の元実践している。 ・研修に参加したり、マニュアル等で確認し、適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を地域の方にも声をかけ定期的に行っている(色々な場面を想定し) ・年に2回避難訓練を行い昼と夜の想定で行っている。	消防署の立会いのもとに昼、夜間の火災を想定した訓練を実施し講評も得ている。様々な場面を想定し、地域住民の見守り、運営推進会議の中での訓練を実施している。水、食品、衣類、毛布等備蓄品も整備されている。	火災警報機や通報機が設置されている部屋に、薬品庫が置かれている。安全性を保つために施設が常態化となっており、緊急時の敏速な通報が懸念される。緊急時の対応で何が優先されるべきかを再度検討していくことを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・生活歴やそれまでの職業等を把握した上での声かけや対応に努めている。	法人の委員会や接遇研修をして職員の意識の向上を図っている。誇りやプライバシーを損ねないよう声かけは耳元で行ったり、その人の良さを知るように心がけている。日々のケアや申し送りの中で相互注意をし、入居者の人格や誇りを損なわないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・普段と表情が違ったりする時は声をかけたり様子を気にして見守るようにしている。 ・人生の先輩として敬い、敬語を使っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴や食事、睡眠など本人のペースを尊重し心身の状態が安定するような対応を心掛けている。 ・自己決定を大切に、なるべく希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人や家族に話を伺いその人らし身だしなみが出来るように家族と協力して行っている。希望があれば理髪や毛染めや衣類の購入(本人と一緒に)も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・見た目や季節の物を取り入れ食事を楽しんでもらえるようにしている。盛り付け片付けは職員と一緒に取り組んでいる。	入居者の希望を取り入れた献立や、菜園で取れた野菜を食材にし、食べる楽しみが持てるように配慮している。入居者は保有能力に合わせて、調理や盛り付け、片付けや洗い物等出来る事を職員と一緒にしている。日曜日にはおやつ作りを行い、楽しみのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量は補給毎に記録し、把握できるようになっている。 ・咀嚼、嚥下の状態を観察しその人に合った食事方法、食事形態をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを実施。本人の能力に応じて対応している。 ・ケアの方法を勉強会で学び実践で生かせるようにしている。必要に応じ歯科医の往診をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・尿意、便意が表出出来る利用者に関しては、都度尋ねながらトイレ誘導している。 又、表出出来ない利用者は排泄パターンを把握しトイレで排泄出来るタイミングでの誘導を心掛けている。	座位で排泄できるような支援に心がけ、一人ひとりに寄り添い、素振りを見ながら誘導をしている。排泄チェック表を基にそれぞれの排泄パターンを把握し、きめ細かなケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給にて、飲み物に乳製品を取り入れている。又、散歩や体操などで体を動かす機会を作っている。 ・根菜や豆類の摂取、散歩などの適度な運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・時間や日にち順番等希望があれば出来る限り対応している。 ・ある程度曜日、時間帯は決まっているが気が乗らない時は次の日に回したりその分入りたいたい人が入ったりしている。	週に2度、午前午後の時間帯で入浴し、時間、湯温、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。入浴を拒む方は声かけなどを工夫して気持ちを和ませ、入浴を促したり、別の日に変えたりしている。菖蒲湯、ゆず湯なども楽しみのひとつとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入床時間は眠くなったタイミングで休んで頂くようにしている。それまで職員と一緒に事務所やフロアで過ごしてもらっている。表出出来ない方は状況をよく観察し良い入床のタイミングで居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・看護師より薬の効用、副作用について説明を受け理解した上で服薬支援を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・役割を持ってもらうことで「人の為に役に立っている」喜びを感じてもらえるように努めている。 ・お花の先生だった利用者には散歩で摘んできた花を生けてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族にも協力してもらい、自宅や馴染みの場所に出掛けられるよう働きかけている。 又、誕生日には希望を伺いそれを叶えられるよう計画、実行している。 ・担当制により個別行事を行っている。	天候の良い日には職員と一緒に散歩したり、ホームで飼っている犬も連れて散歩を楽しんでいる。敷地内や近所の畑の野菜の収穫をしたり、花を摘んでホームに生けたりして楽しんでいる。季節ごとの花見、食材やおやつ、買い物、外食も楽しみとなっている。誕生日の外出には郊外のブルーボネットでの散策、好きな物を食べに出かけたり、家族と一緒に墓参りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自身で管理出来る利用者においては、本人の管理で自販機で飲み物を買ったりしている。 ・家族に事前連絡し、お金が使えるよう支援している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族に了承をもらい、希望されればいつでも電話がかけられるようにしている。 ・馴染みの方への手紙や年賀状など、希望があればやりとり出来るよう支援している。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有の空間は季節に合わせた飾り付けを心掛けている。 ・遮光シートを導入したところ、強い日差しが気にならなくなり過ごしやすくなった。 	<p>明るい日差しが降り注ぐ吹き抜けの高い天井の食堂兼居間は、ワンフロアの共用スペースとなっており、入居者の動きや気配がよく見渡せる。居間のソファにゆっくり腰を掛けテレビを見たり、新聞を読んで過ごしている。季節の作品や行事の写真が飾られている。顔写真が貼ってある誕生カードは名前を覚えたり、懐かしみながら会話を引きだすのに役立っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士の間関係や気分によって居場所が確保できるように常に配慮している。 ・隣のユニットにも自由に行き来できるようにしている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室のスペースが許す限り、テレビや馴染みの物、家で使用していた物を持ち込んでもらうよう入所時説明している。 ・使い慣れた枕・布団を持参し使っている利用者もいる。 	<p>自宅で使用していたものを持ち込んで安心できるスペースを確保している。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの位置がわかりやすいよう紙を貼っている。 ・食器類は自身で出し入れしやすいよう手の届く高さに設置してある。 		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373500145		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	前山ホームらく楽(西)		
所在地	愛知県常滑市金山字前田129		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JizyosyoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成27年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入所に至ったとしても、生活の場が移動しただけでなるべく自宅で生活していたスタイルを入所後も継続できるように努めている。長年同地区で運営している点、地域の方との関わりが根強く、季節の野菜などを差し入れていただいたり、ボランティアとしてレクリエーションに参加してくださる。地域行事や地域防災などにも地域の一人として参加し、協力体制も構築出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田畑が広がる集落の一画に位置し、自然豊かで静かな環境にある。オレンジの屋根とクリーム色のモダンな外観は明るく、周りの景色の中に際立つ佇まいとなっている。「やってあげる」ではなく、「やらせていただく、一緒にやる」という信念を職員が共有し、日々丁寧なケアに努めている。地域で暮らす地域人として、地域の祭りや清掃活動などの行事に積極的に出向いたり、「笹まき」など昔から伝わる菓子作りを地域の人と一緒に作り、祝い事を楽しんだりして、地域の伝承や伝統を生活の中に取り入れて昔からの馴染みを大切にしている。入居者と共にホームにやって来た犬もホームの一員となり、毎日の散歩に楽しさが加わり、こぞって散歩に出かけている。培ってきた生け花や畑仕事などをしながら、暮らしの楽しみと幅を広げようとしている。柔らかい日差しが注ぐ居間で、のんびりとテレビを見たり職員と会話を楽しんだりして過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念に基づきサービスの提供をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域での清掃活動、防災訓練、盆踊りなどに積極的に参加している。 ・町内会に入っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・一斉清掃、地区の防災訓練など利用者にも参加してもらい地域の人と関わる機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では行事報告を含め取り組み状況を報告している。又、テーマを設け勉強会を実施している。 ・会議では家族からも意見を頂きサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・包括支援センターや市役所福祉課の方にも運営推進会議に参加していただき、事業所の実情やサービス内容を伝え、意見をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の基準については理解出来ていると思う。 ・玄関の開放は離設防止のため出来ていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・事業所内で研修を実施している。 ・事業所内での虐待は行われておらず、自己でも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修に参加している。 ・実際の数名の利用者が後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・改定がある場合は運営推進会議などで報告し、欠席者には面会時に伝え理解して頂いている。 ・契約や解約の際には家族の不安や疑問に思うことについて答え納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議、行事等で意見を伺う機会を設けそれを反映できるよう努めている。 ・面会時には利用者の日頃の様子を伝え、家族と話す時間をつくることで要望等を聞く機会をつくっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員ミーティングなどで意見を聞いている。 また、年2回の面談でも要望等聞き出すようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・今年度の後期より、キャリアパス要件と人事考課面接の連動した取り組みを行う。 ・より働きやすいように福利厚生の実にも務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員ミーティングにて2ヶ月に一度、法人内部研修を月に1、2回行い学ぶ機会を設けている。 ・面接などで要望を聞き、希望する外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内の研修会や交流会に参加しており、市を通じて交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所されたら、本人のペースで話を聞き、本人の要望を理解しようと努めている。 ・入所し始めの利用者については特に注意して様子観察を行い気づきを職員で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人や家族の困っている事や要望をじっくり聞いている。又事業所で出来るサービスを説明し、利用者や家族が安心して暮らしていける良い関係が続いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申し込みの時点から家族の困っている事や希望をお聞きし、申し込みを受けつつも、本人や家族にとってその時何が必要か他のサービスも検討しながら話をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の生活に合わせた作業を取り入れながら活動的に過ごして頂けるような関係を築いている。 ・日常生活において、出来る事は自身でやっていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族通信を通し日常の報告をし、来訪時には本人も交えてお話をしている。 ・病院受診や薬の受取りを家族にも協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・いつでも来て下さいと声かけをしている。 ・自宅の畑の様子を家族や職員と一緒に見に出掛けている。 ・知り合いが面会に来て下さっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が仲立ちとなり他利用者に関わりやすい雰囲気作りに努めている。 ・利用者同士トラブルになりそうな時は職員が間に入りお互いの話を聞いている。又、話の輪に入れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した利用者家族がボランティアに来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや意向を日常会話から読み取り、実現出来るよう努めている。 ・利用者から直接希望を聞いたり、聞く事が困難な場合は職員同士で話し合い本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントシートに目を通し、利用者の生活歴を把握している。 ・フェイスシートやケアプランなどにより理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・申し送り、個人記録の把握、職員間の情報交換に努め利用者の現状把握に努めている。 ・その日の利用者の体調に気をつけている。体調により臥床して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の望む良い暮らし、職員の気づき、家族から聞いた家での暮らし方、本人の現状を元に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々、気付いたこと留意すべき点を記録に残している。職員間では申し送り簿で情報の共有に努めている。 ・就業時間終わりの30分には記録の時間を設けており、その日のケアを振り返っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人や家族の要望に応じ、「望む」支援が出来るよう職員や関係者と協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・利用者が安心出来るよう、入所してからも昔からのかかりつけ医を受診している。又、馴染みの店で買い物をしたり、ドライブで利用者の地元を通る事で笑顔が見られる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診は本人のかかりつけ医に入所後も受診している。 ・かかりつけ医に定期的に往診にきてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職としてスタッフ間で情報交換に努め適切な受診が出来るよう努めている。 ・看護師は相談しやすい雰囲気をつくってくれている。 ・利用者の変化やその他問題を看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院内の地域連携室と連絡を取り、利用者の状態が把握出来る関係作りを行っている。 ・管理者、ケアマネ、看護師は出来ていると思うが、一般職員は病院関係者等の関わりはしていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合は家族とかかりつけ医との話し合いをし、終末期のあり方について支援に取り組んでいる。 ・終末期を迎えた際は、医療的な事に関しては看護師の指示を元に、介護に関しては本人の望む事を中心に全職員でできる限りの支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・研修に参加し、身につける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災訓練を定期的に職員及び利用者を含め行っている。 ・地区の防災訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーの確保に努め人格を尊重し言葉掛けにも注意している。 ・朝と夕の申し送りで、言葉遣いに気をつけるよう毎回確認しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の声に耳を傾けるように心掛けている。 ・水分補給の際には、自分の好きな物が飲めるようメニュー表を用意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事の時間等出来る限り本人の希望を優先させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者と一緒にその日着る服を決めている。 ・毎日洗顔後に化粧水や乳液をつけている利用者もいる。 ・希望があれば毛染めの手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・苦手な食べ物がある場合は他の物にするなど対応している。 ・利用者と一緒に食事の盛り付けや片付けを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量はテック表に記入しその都度確認出来るようになっている。 ・体調不良などで食事が食べられない時は看護師相談の上、食事に限らずプリンやゼリーなど本人の食べたい物を食べてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後の歯磨きは自己で出来る利用者には声かけし、出来ない場合は一部介助又は全介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人から排泄の訴えがない場合はチェック表を確認し誘導している。 ・排泄について、利用者の能力によるが、できるだけトイレで排泄できるように本人の排泄パターンで誘導している。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取を促し、体操をしたり散歩に行ったりして頂き、便秘があればかかりつけ医にて下剤の処方依頼している。 ・朝一番に牛乳を提供している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意志を尊重し、無理強いはいしないようにしている。 		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・寝具の清潔に努めている。又、利用者によって昼寝などの時間を設けている。 ・リビングでウトウトされている場合は居室で休んでいただくよう声をかけている。 ・室温調節をし、居室で快適に過ごせるようにしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬について、疑問点や変化があれば看護師に日々報告している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな事、得意な家事など本人の生活歴を職員が知った上で日常の家事等手伝っていただいている。 ・毎月、個別行事もしくは集団行事を計画、実施している。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い時は散歩に出掛けている。又、遠出の場合は計画を立て、家族に事前連絡をしてから外出している。 ・毎日、朝・夕、職員と一緒に飼い犬の散歩に出掛けている利用者がいる。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人の希望があれば買い物に出掛けられるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者によっては毎年知り合いに年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・浴室での温度調整は特に気をつけている。 ・散歩で摘んできた季節の花を利用者に生けてもらいリビングに飾っている。 ・壁に貼っている写真や飾り付けは数ヶ月に一度交換し季節にあったものになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・仲のよい利用者同士が近くなるよう座席を検討し誘導している。 ・共有空間の中にテーブル席、ソファ席があり思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の好みや家族の思い出などを重視している。 ・自宅で使っていた物を持ってきて頂いている。又、希望があれば居室にテレビの設置もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物、不必要な物を置かないよう整理整頓に努めている。 ・トイレの場所がわかりやすいよう貼り紙をしている。		